

# 力を入れてしている訪問診療で、おおいに活用できる往診端末機能を備えた電子カルテ

## 高齢化が進む町で、クリニックと介護施設のグループを展開

名古屋駅からJR中央線快速電車で約40分。東濃地方と呼ばれる地域のほ

ぼ中心に広がる岐阜県土岐市。「美濃焼き」の里として広く知られる。

高齢化率が高い全国の地方都市の例にもれず、土岐市も高齢者が多い。

神経内科が専門で、認知症専門医師で

### 土岐内科クリニック（岐阜県土岐市）

#### 長谷川 嘉哉氏

1966年生まれ。90年名古屋市立大学医学部卒。2000年認知症専門外来および在宅医療の実践のため開業。開業以来10,000件以上の訪問診療、200人以上の在宅看取りを実践している。

#### 橋本 貴至氏

1964年生まれ。90年名古屋市立大学医学部卒。同大学医学部第1内科、三重県厚生連員弁厚生病院、名古屋市厚生院附属病院、愛知医科大学医学部附属病院、NTT西日本東海病院等を経て2009年4月から土岐内科クリニック院長。

## 地域の特性と時代の流れから訪問診療に傾注してきた

外来患者中心の内科クリニックでは開業早々から、レセコン等は導入されていたが、本格的な電子カルテは導入されていなかった。

昨年4月、本院を同じ敷地内の現所在地に移転・拡充したのを機会に本格的に電子カルテを導入したという。診療所用医事一体型電子カルテ「Medicom-HR」である。

「以前から三洋電機さんとは長いお

付き合いがあったし、レセコンも三洋電機さんのものを使っていたので、スタッフも抵抗なく移行できました」と長谷川氏は話す。そして、「Medicom-HR」を導入した理由はもっと大きなことであった。

「このクリニックでは、地域住民の方々への訪問診療に開院当初から力を入れてきました。訪問診療時に、患者さんのところに往診端末を持参して、カルテをつくるのに、この電子カルテは大変効率的なのです」と長谷川氏は続ける。

現在、全国のクリニックでは訪問診療をするところが多くなってきた。が、地域の特性や、わが国の高齢者医療の将来を見据えて、早くから積極的に訪問診療を実施してきた長谷川氏の慧眼は敬服に値するといえるだろう。

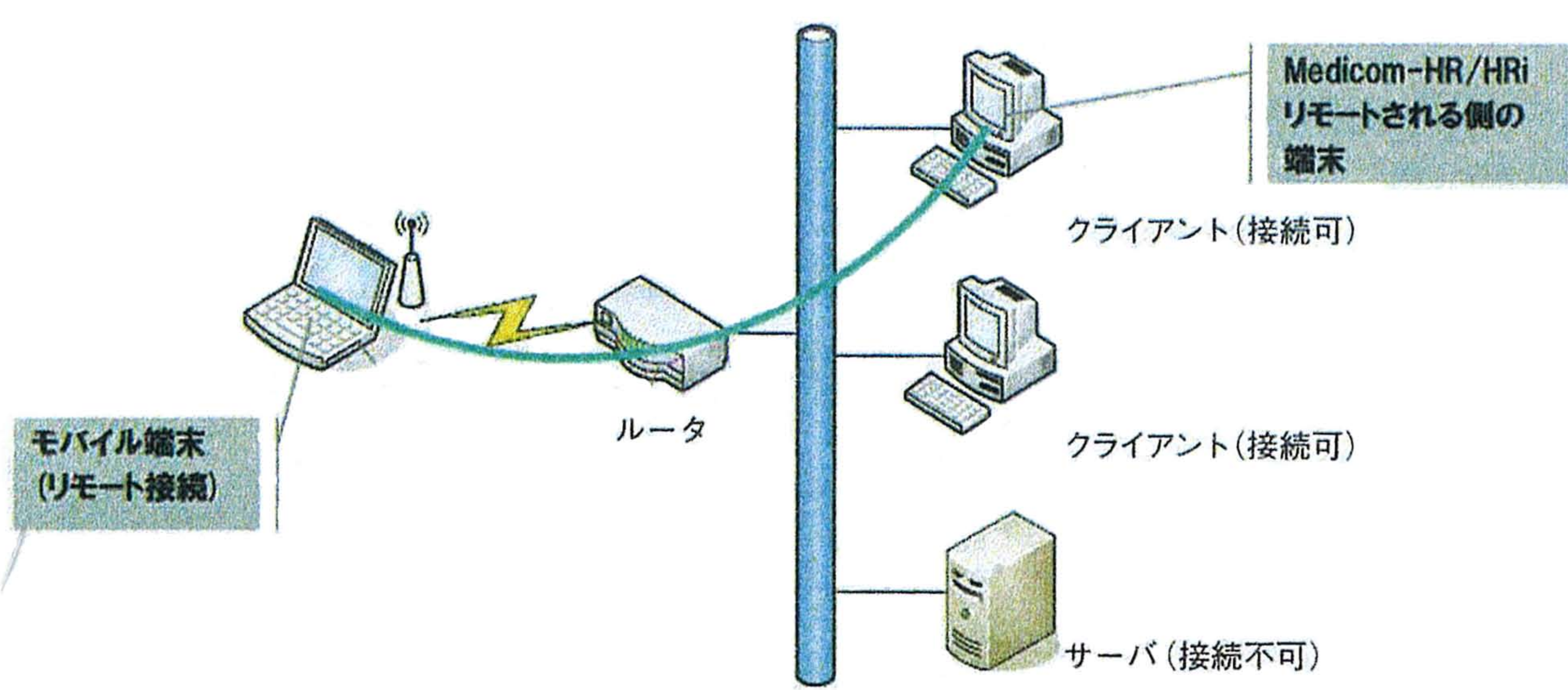
## 訪問先の患者の前で、院内と同じようにカルテを作成できる

訪問診療の際、従来は患者一人ひとりの紙カルテをいちいち持参していた。診察しながらその場で書き込むこともあるが、多くの場合、クリニックに戻ってきてから書き込んでいたという。

「原則として毎日午後1時から4時までは訪問診療に当てています。患者さんの容態の変化によっては、この時間以外に駆けつけることもあります。患者さんの数はかなり多くなってきました。



モバイル端末アクセス図



した。一人ひとりの診察結果を戻ってきてから書き込むのは相当な手間と時間をとられてしまう。戻ってきてからも外来診療がありますから、外来で待つてもらっている患者さんたちに申し訳なかったりすることも多かったのです」と長谷川氏。

長谷川氏が一人で外来も訪問診療もこなしていたクリニックに、長谷川氏と大学時代から旧知の仲である橋本氏が院長として就任したのが2009年春。前述の本院の移転と本格的な電子カルテの導入時期と重なる。

橋本氏の専門は消化器内科。クリニックとして、より多くの患者を診ることができるようになった。地域の患者や医

Medicom-HR



必要ない。

「紙カルテを持って行っていた頃から比べたら、間違いは少ないし、処理が早い。かつてのことを思うと、よく紙カルテでやっていたな、という思いです」と二人は口を揃える。そして長谷川氏は続ける。

「訪問診療は介護とからんできません。介護については役所や施設に提出しなければならぬ書類等も多いんです。訪問診療で作製した電子カルテのデータを整理して提出用にとめるときも早い。紙カルテの内容を書類にまとめ直すことを考えたら手間と時間が大幅に省けます。その分、より多く患者さんを診ることもできるし、患者さん一人の診察にもっと多くの時間がかけられます。このメリットは大きいですよ」と。

導入当初は往診端末と一緒に紙カルテも念のため持参したり、現場で小さなトラブルが起こることもあった、と橋本氏は笑う。

しかしそういう場合でも三洋電機代理店のサポート体制が万全だから安心して使えると長谷川氏。当初は一台の端末を二人が交代で持ち出していた。現在は各々の端末を使っている。カスタマイズも良く、一人の患者のデータを共有できる。データ更新などのサ

ビスも満足している、と二人が口を揃える。

端末を持参して、患者の前でID番号を入力すれば、データがすぐ画面にアップされる。院内での診察と同じように所見を入力すればそのままクリニックのサーバにデータが入る、というわけである。紙カルテを持ち出すわけではないのでセキュリティも安全だし、クリニックと同じ環境で診察できるので、往診患者以外のデータを見たり、手持ち以外の情報を見たりすることができる。トラブルはほとんど起きていないと言う。

取材に訪れたときも、午後から各々が7件の訪問診療に出かけるところだった。

二人で月に200件程度の訪問診療をしているという。この数は、これから増えるばかりであろう。往診端末機能を備えた電子カルテはますます活躍することになる。

「私は、勤務していた病院で検査機器やレセコン等を活用していましたから、ここに来てMedicom-HRにも、抵抗なくなりました。そして、なんといつでも往診端末を持参して訪問診療に行けることは大変助かりました」と橋本氏は話す。

往診する前にあらかじめ端末にデータをダウンロードしたり、戻ってからアップロードしたりする必要がない。端末を指定して院内にアクセスすればリモート接続され、往診先でも院内と同様の環境で診察・作業ができる。また、クリニックに戻った後の再入力も

お問い合わせ先

三洋電機株式会社  
コマーシャルカンパニー  
メディコム事業部

〒110-0005

東京都台東区上野1丁目19番10号  
上野広小路会館ビル5F

URL: <http://www.medicom.sanyo.com/>

TEL: 03-5816-5170 (代表)

FAX: 03-5816-5175